

(昭和50年3月1日第3種郵便物認可)

議会 市算 寄 名決

# 重度障害者に配慮

## ハイヤーチケット交付方法の改善検討

【名寄】市議会決算のハイヤーチケットを審査特別委員会(川口京二委員長)は27日午前に、民生費の歳出審査を行った。市は「重度障がい者ハイヤー料金助成の申請方法など、制度の改善を検討する考えを示した。佐久間誠委員(市民連合・凜風会)に答えた。

同助成は、身体障害者手帳、療育手帳所持者を対象に、初乗り分

のハイヤーチケットを障害の程度に応じた枚数を交付。市役所名寄庁舎か風連庁舎の窓口で申請してもらい、手渡している。15年度の交付人数は425人で、対象者数832人に対し、交付率は約51%だった。

佐久間委員は「重い障害を持つ人に窓口まで来てもらう方法が市民第一なのか」と指摘し、書留郵便での送付など交付方法を含めた見直しを求めた。

柴野武志社会福祉課主幹は「代理人でも受け取れるようになっていくが、今年度アンケート調査を実施しており、実態に合った制度にしていく」と、田辺俊昭健康福祉部長は「丁寧な配布方法、制度の使い勝手を含め、アンケートを踏まえよりよい事業にしていく」と見直しを検討する考えを示した。

このほか、生活困窮者自立支援事業の相談実態や周知について、鈴木康寛社会福祉課長は「相談は延べ167件で、収入や生活、口金などお金に関する相談が5割だった。生活保護へ移行したのは7人。敷居を低くし、小さなことでも相談につなげたい」と答えた。高橋伸典委員(公明)、高野美枝子委員(市民連合・凜風会)への答弁。

東川孝義委員(市政クラブ・新緑風会)は、ごみ分別や紙などの資源ごみ回収率の向上をたじた。野田三樹也委員(名風会)は、就学前児童の発達支援について、モニタリング後の継続した支援を指摘。山崎真由美委員(市民連合・凜風会)は、市ことも発達支援センターの備品、教材、職員研修の充実や大学との連携を求めた。

(吉永雅人)

(1)